

3月1日のレッスン

二つの大いなる戒め

鍵となる聖句：「すると、律法学者の一人が来て、彼らが議論しているのを聞き、イエスが彼らにうまく答えたのを知って、『すべての戒めの中で、一番大切な戒めはどれですか』と尋ねた。」

マルコによる福音書 12:28

聖句抜粋：

マルコによる福音書12章28-34節

今日の学びに至るまで、イエスは神殿の庭で祭司長や長老たちに囲まれ、どんな権威をもって教えているのかと問いただされました（マルコ 11:27,28）。それに対してイエスは、悪しき農夫たちのたとえを語られました。そこでは、悪しき管理人たちが地主の息子を殺してしまうのです。このたとえを通して、イエスはユダヤの宗教指導者たちが、民に対する権力と権威を維持するために神の御子を殺す者たちであると明確に示された。マタイの記録にあるように、イエスはこう応答された。「神の国はあなたがたから取り上げられ、その実を結ぶ国民に与えられるであろう。」マタイ 21:43

これに激怒したファリサイ派やユダヤの指導者たちは、様々な質問でイエスを陥れようと試みた。ファリサイ派は「カイザルに税を納めるのは律法にかなっているか」と問いただし、主は「カイザ

ルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい」と答えた（マルコ12:13-17）。次にサドカイ派が尋ねたのは、七人の兄弟が同じ女性と結婚した場合、御国では誰がその妻の夫となるかということだった。彼らは死者の復活を信じていなかったため、イエスはこう答えた。「あなたがたの間違ひは、聖書を知らず、神の力も知らないことにある。」（マルコ12:24）

イエスの答えに感銘を受けた「律法学者」が、おそらく真摯な気持ちで、私たちのキー・バースに記されている質問をした。「イエスは答えて言われた。『最も重要な戒めはこれである。聞け、イスラエルよ。私たちの神、主は唯一の神である。心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』」（マルコ12:29,30）。申命記6:4,5から直接引用されたこのイエスの言葉は、なんと素晴らしく包括的なものであろうか。

イエスは律法学者の問いを超え、第二の戒めが第一の戒めと関連していることを宣言された。すなわち「あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい」である。（マルコ12:31）ここでもイエスは旧約聖書（レビ記19:18）を引用された。わずか数語でどれほど多くのことが語られていることか。聖書は、被造物の福祉のために備えられた御業によって示される、憐れみと慈しみと愛の神を明らかにする。神の言葉はまた、被造物に報いる愛を勧告し、創造主と隣人に対する高い基準を提示している。

この神の律法は、その最も深い意味において未だ完全に理解されてはいない。この基準への限定的なアプローチは、孔子の教えに見いだせるかもしれない。すなわち「人にされたくないことを、人にしてはならない」という趣旨である。しかし、これを聖書と比較すると、なんと対照的なことか！前者は単なる否定的な命題に過ぎないが、後者は積極的な命題である。「あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい」。

確かに、神の律法には神聖なる印を押す要素が数多く存在する。もし人々がこの二つの偉大な律法に従って生きる能力と意志を持てば、この世はなんと美しいものになるだろう。誰もが心を尽くし、魂を尽くして天の父を愛し、すべての人々が隣人を己のように愛し、機会あるごとに彼らに仕えようとする。それがまさに樂園である。感謝すべきことに、メシアの王国が確立される時、この世がまさにそうなることが約束されているのだ。